

## 事例番号 087 路地のたたずまいを保全する都市再生(愛知県碧南市・大浜地区)

### 1. 背景

碧南市大浜地区は、南北朝・室町時代から湊町として開けた歴史を有し、現在でも大きな寺院とともに味噌・味噌などの特産品を生産する工場等の蔵が点在している。地区内には多くの路地があり、寺院や蔵などの伝統的なたたずまいと一体となり、歴史を感じさせる優れた雰囲気町の町並みを形成している。このように湊、寺、蔵、路地がこのまちの特徴となっている反面、車の利用が不便であることや接道条件から建替えができないなどから人口が減少し、商業機能も衰退していた。

このような中で、2000(平成 12)年 3 月に国の「歩いて暮らせる街づくり」のモデル地区として、全国 20ヶ所のなかの 1 つに碧南市大浜地区が選定された。それをきっかけとして、「多世代居住を実現する安全・安心な生活空間の形成」と「歴史資源を活用した回遊型交流空間の形成」を 2 つの柱に行政・住民・民間事業者の協働によりまちづくりが進められており、その中で、テーマのひとつとして「路地や細街路のたたずまいの保全・再生」が掲げられ、町並みの魅力と防災・交通との共存を実現するまちづくりのため、様々な主体が関わる取り組みが実施されている。また、「地域再生計画」や「都市再生整備計画」の申請区域とも重複しており、本取り組みはますます大きな意義を持つ状況になってきている。

### 2. 目標

第 4 次碧南市総合計画は、当地区において、「歩いて暮らせる街づくり」、「歴史文化と水・緑を活かした魅力と活力の再生」を推進することを位置づけている。

一方、2004(平成 16)年に採択された都市再生整備計画では、大浜地区整備の大目標を「地区が有する水・緑・歴史・文化といった資源を有効に活用しながら、質の高い生活空間と交流空間を整備することによる、歩いて暮らせる街づくりの実現」としており、そのための目標を以下のように設定している。

- 目標 1 安全・安心に暮らすための地域交通体系を整備する。
- 目標 2 快適・便利に暮らすための行政機能・世代交流機能を整備する。
- 目標 3 回遊型の交流ができるよう、寺町構想を推進し、新たな集客交流拠点を整備する。

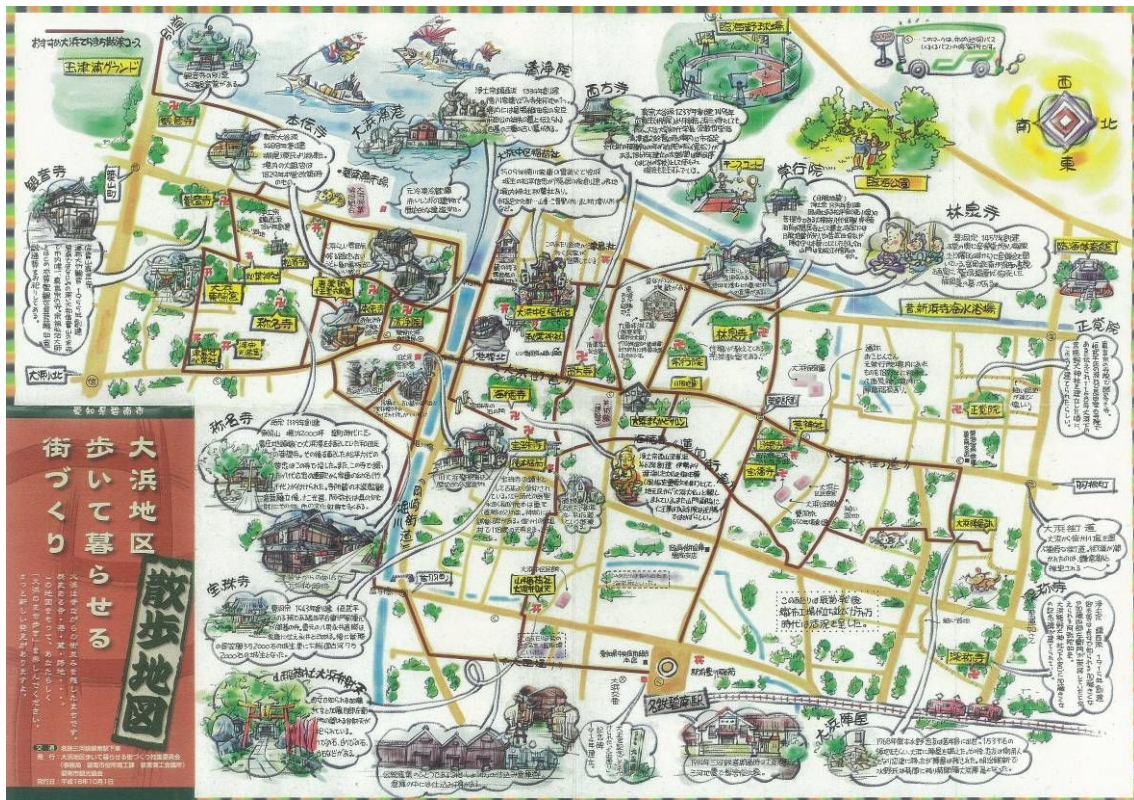
### 3. 取り組みの体制

基本的には行政(碧南市)と地域住民とが協働で計画策定を進めている。2000(平成 12)年頃から「大浜地区歩いて暮らせる街づくり推進委員会」が中心となり、まちづくりの方向性やコンセプト、導入プロジェクト等について話し合いを重ねており、その成果として、2000(平成 12)年度には「歩いて暮らせる街づくり基本構想」が、2001(平成 13)年度には「大浜地区歩いて暮らせる街づくり基本計画」が策定された。また、「大浜てらまちウォーキングイベント」が 2000(平成 12)年度から毎年開催されている。

2005(平成 17)年に内閣府に採択された都市再生整備計画の策定にあたっては、「大浜地区歩いて暮らせる街づくり推進委員会」による計画をもとに、碧南市関係各課での検討会議を実施して計画を作成・提出し、採択されている。



碧南市の位置 (資料: 碧南市観光協会ホームページ)



「大浜地区 歩いて暮らせる街づくり 散歩地図」 (資料: 碧南市ホームページ)



大浜てらまちウォークイベントの様子(写真提供:碧南市)

まちづくりの経緯 (資料:碧南市『大浜地区歩いて暮らせる街づくり事業について』)

平成11年度	経済新生対策(平成11年11月11日閣議決定)に位置づけられる「歩いて暮らせる街づくり」のモデル地区に指定される。
平成12年度	大浜地区歩いて暮らせる街づくり推進委員会が組織された。 「歩いて暮らせる街づくり調査(碧南市大浜地区)」(建設省) 「歩いて暮らせる街づくり基本構想」とともに3つの方向性が示され大まかな導入プロジェクトが検討された。
平成13年度	導入プロジェクトの具体化に向けた方策についての検討が行われ、「大浜地区歩いて暮らせる街づくり基本計画」が策定された。
平成14年度	各種導入プロジェクトを実施するために、庁内関係課において、実現可能なプロジェクトの検討を行った。
平成15年度	関係各課が集まり、各種導入プロジェクトを効率的かつ効果的に実施するために各種プロジェクトの実施時期など組み合わせを考えた「まちづくり構想図(案)」を整理するとともに、まちづくりの事業計画の導入に向けた準備を行った。
平成16年度	5月に「地域再生計画」を国に提出し、同年6月に認定された。 5月に「都市再生整備計画」を国に提出し、同年6月に採択された。 今後は、まちづくり交付金を活用しながらまちづくりを進めていくこととなる。

#### 4. 具体策

##### (1) 歩いて暮らせる街づくりの実践

地域の大きな目標である歩いて暮らせる街づくりの実現に向けて、都市再生整備計画は以下の整備方針を掲げている。

整備方針	方針の概要	関連する事業等
①安全・安心に暮らすための地域交通体系の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通過交通を処理するため都市計画道路碧南高浜線を整備。また、市道中町前浜線を相互通行化することにより都市計画道路碧南高浜線と碧南駅との連絡性向上を図る。</li> <li>・市民とともに検討することにより、地域コミュニティバスとしての「くるくるバス」のサービス向上を図る。</li> <li>・碧南駅周辺において、都市計画道路碧南駅前線及び駅前広場の整備を推進し、交通拠点としての機能を高める。</li> </ul>	道路整備(基幹事業) 「くるくるバス」のサービスにおけるNPO等の活動支援(提案事業)
②快適・便利に暮らすための行政機能・世代交流機能の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の快適性・利便性を向上させるため、行政機能・世代交流機能を持つ施設として、「(仮称)大浜まちづくりセンター」を整備する。</li> <li>・快適・便利な暮らしの場としての都市基盤を整備する。</li> </ul>	既存建造物活用事業 (基幹事業) 地域生活基盤施設整備 (基幹事業/広場、市) 下水道整備事業 (関連事業、市) 景観整備 (関連事業、市)
③回遊型交流施設のための、新たな集客交流拠点の整備、寺町構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外から様々な人が来街することで、当地区の認知を向上させるとともに、地区住民との交流を促進できるよう、新たな集客拠点である臨海公園および美術館を整備する。</li> <li>・「寺町構想」を推進するため、寺社を結ぶてらまち散策コース及び空き地などを活用した辻広場を整備する。</li> <li>・上記による歩行回遊空間の形成にあたっては、市民との協働による取り組みを行う。</li> </ul>	地域生活基盤施設整備 (基幹事業/広場) 高質空間形成施設整備 (基幹事業/緑化施設等) 公園整備(基幹事業) 「寺社におけるサービス」・「大浜てらまちウォーキングイベント」におけるNPO等の活動支援(提案事業) 「(仮称)フィッシャーマンズワープ」の整備(関連事業、大浜漁業協同組合) 美術館の整備(提案事業)

## (2) 住民参加のまちづくり活動の実践

### ① 大浜てらまちウォーキングイベントの実施

行政と住民の協働の組織である「大浜地区歩いて暮らせる街づくり推進委員会」が中心となり、2000(平成 12)年秋にスタートした「大浜てらまちウォーキング」では、様々な団体がまちの各所で多様なイベント(小学校児童による総合学習発表、地元商店街による催し、建築士会による街角フォトクイズなど)を開催し、まちの魅力を紹介、多くの参加者で賑わっている。



大浜てらまちウォークイベントの様子 (写真提供: 碧南市)



大浜てらまちウォークイベントの様子 (写真提供: 碧南市)

### ② 路地空間活用の取り組み(「ビジュアル路地台帳」の作成等)

地区内の路地空間は災害時の危険性が問題視される一方で、静かなたたずまいを有し魅力的な景観を有するところが少なくない。そのため「路地や細街路のたたずまいの保全・再生」が各地の地域再生のテーマとして掲げられ、路地の雰囲気を残そうという取り組みが大阪市法善寺横丁など各地で行われている。大浜地区では建築士会も熱心に研究活動を実施しており、ハウジング&コミュニティ財団の助成をうけて地区内のすべての路地を調査し、「ビジュアル路地台帳」の作成などを行っている。

## 5. 特徴的手法

大浜地区地域再生計画は、「住工が混在・密集し、寺社等貴重な歴史資産が点在する風情ある町並みを形成しているが、狭い路地のため、建築基準法の規制により、建替え出来ない」ことをまちの課題として指摘している。そして、この状況を打開するため、都市再生の目標を、「旧来の路地裏など、豊かな歩行者空間を創出できる資源を有効活用し、区画整理の手法によらないコンパクトで町並みを活かした整備と併せ、まちづくりの拠点となる遊休施設を有効活用し、安全に安心して歩いて暮らすことができ、人と人とのふれあいを大事に守る心豊かな都市空間の形成を目指す」としている。従来型の土地区画整理などのスクラップ&ビルトの手法によるのではなく、歩いて暮らせる街づくりと連動した、路地空間の持つ独特のたたずまい、安心感や心地よさを生かしたまち再生への取り組みが行われていることが特徴である。

なお、都市再生整備計画では、まち再生の効果を定量化する指標として以下の3つを設定している。

- ① 市民アンケートの「道路施策」中の大浜地区での「ほぼ満足」の回答  
現在 10% (平成 15 年) → 目標 20% (平成 20 年)
- ② (仮称)大浜まちづくりセンター、美術館の利用者数  
現在 0 人 (平成 15 年) → 目標 1,000 人 (平成 20 年)
- ③ 大浜でらまちウォーキングイベントの中での俳句会への参加者数  
現在 936 人 (平成 15 年) → 目標 1,200 人 (平成 20 年)

## 6. 課題

「歩いて暮らせる街づくり」を実現していくためには歩行者優先のまちづくりを推進していくことが必要であるが、現状ではその前提となる幹線道路網が充実していないという課題がある。また、安心して暮らすための生活支援機能として、身近に行政サービスを受けることのできる機能や、様々な世代が交流・連携するための拠点の形成が求められている。地区コミュニティーの維持・発展を図り、また、生活の快適性・利便性を向上させていくためには、遊休化している既存の施設の利活用を図ることが合理的かつ有効であると考えられる。

一方、地区の最大の資源である歴史ある寺社の集積を活かし、歩行回遊空間としての「寺町」の形成を目指す「寺町構想」を推進するために寺社を結ぶ散策コースの整備や空き地などを活用した休憩スペースの整備などが進められているが、市内外からの様々な人々の来街により当地区の認知度を高めるとともに地区住民との交流を一層促進するためには集客拠点の積極的な整備が引き続き重要な課題である。

(参考・引用文献)

碧南市『大浜地区歩いて暮らせる街づくり基本計画』

碧南市『大浜地区歩いて暮らせる街づくり事業について』パンフレット

碧南市ホームページ

都市再生整備計画資料(平成 17 年 3 月、碧南市)

地域再生計画資料